

独仏語圏文化学研究会シンポジウム

世紀転換期の装飾と「近代性」をめぐる問題 —ヨーロッパ文化論の視座から—

(科研費助成事業 基礎研究 C : 16K02541)

日時：2019年3月24日(日) 13:30~18:00

会場：大阪市立大学杉本キャンパス 文化交流室(学術情報総合センター1階)

事前申し込み不要・参加自由

＜基調講演＞ 13:30~14:20 (質疑応答含む)

講演者：杉山 真魚(岐阜大学教育学部 准教授)

アーツ・アンド・クラフツの思想：モリスの歴史観と近代性の関係を中心に

司会：白田 由樹

＜パネル報告＞ 14:30~16:00

白田 由樹(大阪市立大学大学院文学研究科 准教授)

アール・ヌーヴォーの初期理念と世紀末ベルギー：

ヴァン・デ・ヴェルデとその周辺

辻 昌子(大阪市立大学大学院文学研究科 都市文化研究センター研究員)

フランスの室内装飾とコレクションの大衆化：蒐集マニュアルの変遷から

高井 絹子(大阪市立大学大学院文学研究科 准教授)

ウィーン工房の方針転換：優美さの選択

長谷川 健一(大阪市立大学大学院文学研究科 准教授)

「新しい装飾」と「新しい芸術」をめぐる：

H. ムテジウスによるドイツの独自性の追求

＜パネルディスカッション＞ 16:15~16:45

＜特別講演＞ 17:00~17:50

講演者：中島廣子(大阪市立大学大学院文学研究科 名誉教授)

フランス世紀末文学の翻訳と「室内装飾」

司会：辻 昌子

主催：大阪市立大学フランス文学会／共催：文学研究科 都市文化研究センター